

個性が 性を超えて

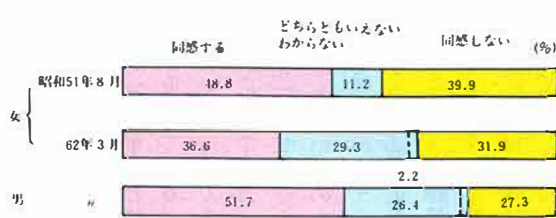
80年代は女性の
時代と云うけれど

いま、社会のあらゆる分野で女性
は活動しています。一昔前までは
考えられなかった職種への進出
が華やかな話題をまきます。
しかし、表面的には女性の活動
が多様化・積極化してきているもの
の、社会や家庭における女性の
地位や役割は本当に変わったと言
えるでしょうか？

まだ男は仕事
女は家庭!?

若い女性の結婚願望、保守化が
以前より強くなったという話を耳
にします。キャリアウーマンが脚光
を浴びる一方で女の幸せは結婚し
家庭を守る——この神話は崩れて
いません。
家事・育児・老人介護と全てを女
性の肩に負わせる事で成り立って
いる社会で、女性の経済的自立や
社会参加は望めるでしょうか。男
性も女性も社会も意識を変えてゆ
く時代の潮流を感じませんか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



資料出所：総理府「婦人に関する世論調査」(昭和51年)
「女性に関する世論調査」(昭和62年)

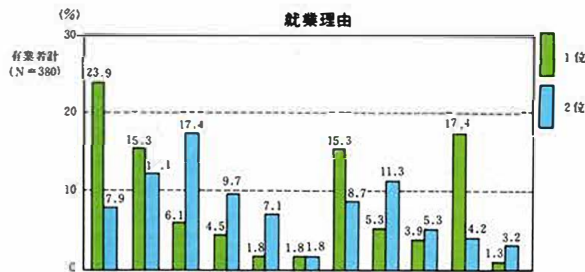
働く女性の
意識は?

現在、県内の女性の六割以上が
なんらかの形で仕事に就いていま
す。そして、四十代の主婦に限って
みると、四人の内三人までがフル
タイムやパートで働いています。
家庭と仕事を両立するために抱
える主婦の悩みや奮戦ぶりは実
にさまざまです。

フルタイムA子さん(40代前半)
公務員としてやりがいのある毎
日だと思えます。子育ては全て義
母に任せました。ただ、今になっ
て振り返ってみると、母親にしか
できない子育ての部分で確かに
ありますね。仕事が多忙で、子供
の思いや悩みを充分察知してやれ
なかった分、今になって、ツケが
回ってきている感じがします。
仕事を持つっていると、自分の健
康管理や地域との関わりがおろそ
かになりますね。私自身の役割で、
大切にしている事は、後輩の指導
です。女性同士が助け合っていてゆ
くことが、これから女性が社会へ出
て活動の領域を深めてゆく上で、
一番大切なことだと思います。

パートタイムB子さん(30代後半)
子供たちが小さなうちは子育て
に重点を置きたいと考え、仕事に
就こうとは思いませんでした。下
の子が小学四年生になった時、子
供が帰宅する時に家で迎えられる
事を条件に仕事を探し、現在の大
学生協のパートに就いたわけです。
この仕事は、一日四時間の就労
で家から近く、夏休みなど長期休
暇が取り易くぴったりでした。
ただ、パートですから、フルタ
イムと同じ待遇というわけにはい
きません。今の生活に慣れるのに
相当な努力を必要としましたが、
親離れ・子離れができたことが一
番の収穫でした。

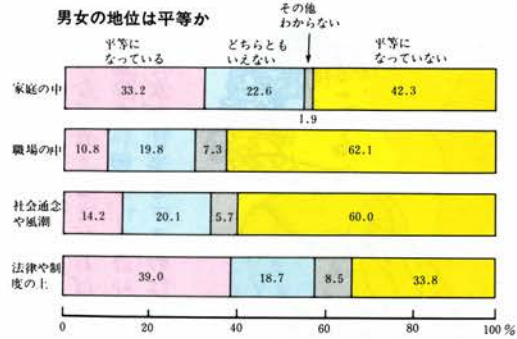
就業理由



資料出所：経済企画庁「長寿社会における女性のライフ
コースに関する調査」(昭和62年)

男女平等の
はずが!?

法の下に男女平等が唱われてから四十年以上が経ちました。基本的には権利も義務も機会も均等のはずなのに、私たちの周りを見わたすと、就職問題・職場での待遇・婚姻制度といつも優位な立場にいるのは男性です。成長するにつれ幾多の女性がそんな矛盾や差別にぶつかり、困惑してきたことでしょう。長い間に培われてきた社会通念だからとあきらめず、一つ一つ是正していきこそ男女共同参加型社会は生まれます。



個性が性を越える時代“を迎えるために!

女性のボランティア活動や地域活動への関心は高く、何らかの市民活動をしている女性の数は男性

女性の声を
政策へ



女性の解放度ランキング

をはるかに上回ります。しかし、婦人議員の数となると、まだまだ少ないのが静岡県です。女性有権者が過半数を占める現状からみても、政治への関心を深め、女性の声を政策へ反映させるための働きかけが必要ではないでしょうか。

今、女性が
はばたく時

“しなやかにはばたこう”としてもなかなかできないでいる女性たち。

女性である前に、人間として、自分の意志で自由に生き方を選び能力が発揮できる社会—そんな社会形成が必要です。それは男性の協力なしにはできません。

“男性も女性も人間として平等”という考えを小さい時から学校・家庭・社会を通して子供たちに理解させる教育、女性が自分の目で確かめ自分の言葉で自らの考えが話せる土壌、女性同士が連帯感を持つ事などが必要となります。

時代の流れは待ってくれません。次の世代を待たず、今を生きる私たちが踏み出してみませんか。大きくはばたける社会を目指して。

子供のそばにいっぱい

僕の両親は仕事が忙しくて子供の相手なんかしてくれなかったけど、いつも視界の中にいてくれたから安心できた。未来の奥さんに「子供ができたら仕事をやめなきゃいけない？」と聞かれたけど返事はしていない。やっぱり子供のそばにいてほしい。でも経済的なこともあるし、そのときにならないとわからない。

(結婚直前20代男性)

自分なりの生き方をしてみれば

仕事がおもしろければ保育園に預ければいいんじゃない。それを無理にやめれば自分の内面にひずみがくるのでは。生き方は個々の

スクランブル

拝借いたします……

「仕事も家庭も」と、現実には、仕事と育児はどのように考えますか。

クーマン

……ちよつとお耳を

「仕事か家庭か」から代は変化していますが、のはざまて悩む人が多い「仕事と育児、あなた

一度仕事を手離すと……

仕事は続けた方がよいと思う。一度仕事を手離すと、再び充実した仕事の環境を確保するのは現状ではむずかしい。初めての子育てで不安もあるでしょうけれど、夫の協力も頼めるようだし、むしろ家族の絆は一層強くなるのでは……

(出産退職した30代主婦)

協力が大切です

子どもが学童保育と保育園にお世話になっていきます。朝、子どもがぐずぐずと私を求める時など、仕事に出るのがつらいですね。子どもが病気になるって保育園に預けることができない時は、主人と交

もつよい方向に変わって

バラエティーがあつていいと思うわ。非婚であろうと子持ちであろうとあるいは男性であろうと、個々が自由に自分の生き方を選択できるような社会状況を作っていくことがこれからの課題だと思ふな。

(30代子育て中ママ)

本来、夫と妻と二人の子供なのだから二人で育てるべきよね。

男は仕事があるからと、当然の様に子育てからのがれられる事がある。女である妻はたとえ仕事をしていたとしてもそれが許されない。子供が熱を出した時、参観日、夏休みなど考えると、おばあちゃんでもない限り、小さい子をかかえて女が仕事をするのはむずか



私：就職して七年、結婚して二年。家庭・仕事共に順調で、仕事に欲と責任感を感じるし、毎日がとっても充実しています。でも、

今、お腹に六ヶ月の子がいて、出産した後、仕事を続けようか、迷っているんです。近くの保育園では乳児から預かってくれると言うし、主人も協力してくれると言うけど、近くに身寄りもないし……

(迷えるブレママ)

代で休むなどしています。はしかなど長期間休まなければいけない時は、大阪から母に来てもらいました。主人と協力することで、なんとか乗り切っています。

(30代共働き育児最中ママ)



しいと思う。せめて、娘たちの時代には、もつと良い方向に変わっている事を期待するわ。

(今後に期待ばかりする母)



子育てに手抜きは禁物

私は結婚と同時に仕事をやめ、二児の母親になりました。子供もほしい、仕事も続けたい、その気持ちはわかりますが、仕事はいつでもすることができません。しかし、命ある子育ては今しかできません。母親である私たちに、一人の人間を育てているという意識があれば、子育てに手抜きはできないと思います。

(20代仕事をやめたママ)

女性が住みやすい社会を

私は子供ができて仕事が続けられるように、友達と三人で会社を作って仕事をしています。今は子供を保育園に預けているから特に問題はないですね。でも小学生になってからが心配です。学童保育がなければ、仕事を家庭に持ち込んで家にいる時間を作ろうかと思っているんです。今は女性が社会の体制の中で優遇されていないけど、仕事を続けていけば、もうちよつと女性が住みやすくなるんじゃないかな……。それまでがんばってみようと思います。

(30代がんばるママ)

ときをうまくまわす

仕事を続けることへの不安がどうしても大きいのなら、あつさりやめて子育てに専念した方が安全策かもしれません。でも、二者択一と考えないで、勿論仕事の条件にもよるでしょうが、できるところまでやってみて、どうしても無理ならば、それからやめても遅くないのでは。夫の協力が一番の助けでしょう。

(30代パートタイマー)



自己修養の場とママ

小さい子が二人いるので育児に忙しくて、仕事はおろか、自分が自由に使える時間さえなかなか持てないのが現状です。でも子供が三歳になったら再就職しようと思つて、新聞の社会・経済面は欠かさず読んだり、ワープロの勉強をしたりしています。子育ての期間は自己修養の場と割りきるのもいいんじゃないかしら。とかくこの期間は世間の情報に疎くなりがちだから……。

(20代年子の母親)

子供が小さいうちは

今振り返ってみて、子供を育てている時期というのは、とっても楽しかったわね。かわいくて、一分でも長く一緒にいたいっていう感じ。仕事をしようかなと考えたのは、子供が自立の気配を見せてから。子供が大きくなったので、今は隔日勤務のパートで働いています。たまったお金は、自分の趣味や旅行に使っているわ。今の生活に満足しています。

(脂肪までたまってきたママ)

仕事の仕方を変えて

ここまで条件がそろっているならば、やってみたらいいのではないかな。子育てをしながらの仕事であるので、子どもとの接点をつめながら、必ずしもこれまでと同じやり方でなく、仕事の仕方を変えていくという考え方がいいのではないかな。

(40代男性)

子供大好き! 仕事大好き!



仕事も育児もやりくりしたい

子供を寝かせた後に塾の講師をやっています。時間の融通もきくし、やりがいのある仕事だと思つています。仕事の種類も増えたので、主婦が家事や育児をやりくりしながらできる仕事もできてくるのではないのでしょうか。でも社会全体から見るとまだまだ。もつと女性の社会進出が当たり前と思えるような世の中になってほしいですね。

(30代これらががんばるママ)

県政へ女性の声を反映させようという目的で、七月二十七日、「しずおか女性会議」が静岡市で開催されました。今年も、昨年の「静岡県婦人会議」から「しずおか女性会議」と改め、県内二十五市町村から一名ずつ、各地域の中堅リーダーとして活躍している女性が集まり、斉藤滋与史県知事ほか六名の県当局者出席のもと、様々な意見交換が行われました。会議は、まず知事から県政推進の理念や、婦人行政推進の施策などの説明があり、続いて参加女性による一分間スピーチと知事感想、知事や県当局者と参加者の意見交換という順にすすめられました。

女性会議開かる

「県政への女性の参加」

よる活力ある地域づくりへの提言～
63年7月27日 13:00～15:30
会館4F ゴールデンホール

しずおか

テーマ

～男女共同参加に
とき 昭和
ところ 日興



知事のユーモアあふれるお話など、会議はなごやかな雰囲気が進みながらも、男女平等の問題では、それぞれの視点から、熱心な意見の交換が行われました。また地域の要となつて実践活動に従事している女性であるだけに、活動の場を踏まえての切実な提言・要望が多く出されました。

◆男女平等教育

A 学校における生徒会の役員などを見ると、女子の占める位置はまだ限られている。男女平等教育が大切だと思ふ。

B 私の住んでいる地区の中学校では女子が会長、副会長をやっている。こういう意識は上から与えられるものではないと思ふ。生徒の自主性を待ちたい。

C 若い世代の父親とそうでない父親とでは意識にあきらかに差がある。それはやはり教育の果たす役割が大きいのではないか。人々が広く交流し、様々な考えをとり入れる社会教育の大切さを実感する。

こういった面での日本の社会の成熟度はまだ低い。学校教育の問題には行政の介入も慎重でなければならぬ。今は、よい方向にもっていくよう個々に現場の先生と話し合っていくてもらいたい。

◆それぞれの立場から

A お年寄りに食事配達のボランティアをしている。お年寄りたちが気軽に集える場がもっとあればよい。

B 職業訓練所などに高齢者対策の資格をとれる場を設置して欲しい。そこで学んだ女性が各地域にもどって働いてくれる事を望みたい。

C 過疎地に住んでいるが、子供の教育の場を充実させ若い人たちのUターンをはかりたい。

D 社会教育の専門分野での指導者の育成と女性に行政の参画の場を望みたい。またそれを市町村レベルまで下げて欲しい。

E 様々な婦人グループが情報交換や話し合いをする交流の場を望みたい。

地域で老人問題に取り組んでいる皆様には心から感謝したい。高齢化社会をむかえ、様々な場が必要である事は心すべき事と思ふ。

教育行政問題は、一つの意見として関係機関に伝えておきたい。

婦人問題に関しては、地方の個人の意見の反映や婦人グループの横の連絡などは、まだ十分といえない。これらの意見を反映させたいと、各市町村との意思の疎通をはかりながらやっている。各グループ、婦人課に話を持って来てもらったり、市町村に働きかける努力をしていただきたい。

一分間スピーチより



公民館活動に参加させていただき常に感じます事は、参加者のほとんどが私たち女性で占められており、男性の方の参加はお年を召した方以外ほとんど皆無の状態だという事です。でもこれではいけません。働き盛りの男性や、夫婦単位で学ぶ事のできる公民館のカリキュラムが今後必要ではないかと思ひます。

地域に住む人々が自覚をもって確かな力をつける事が地域づくりの活力の源になると考へる。「高齢化」「女性の社会進出」等の社会状況の前に男女が共に人間として生きる手だてを習得する事の大切さを痛感している。その為に私は県で始められた「婦人問題通信講座」に関心を寄せたのである。尚多くの男性の参加を望みたい。

*婦人課では今年から、婦人問題通信講座を開きましたが、参加者四百五十五名の内、男性は、わずかに七名といった状況です。より多くの男性の参加を期待します。

真の男女平等へ向けて社会の意識をいかに変えていくかが、大きな課題と思われれます。私はその為には次の世代を生きて、子供たちの教育が重要なポイントになると考へます。家庭はもとより学校その他あらゆる教育の場で男女の差別をなくし、人間としてお互いが自然な形で認めあい尊重しあうことができこそ、初めて男女共同参加の社会といえるのではないのでしょうか。

農業も、作れば売れる時代から、何を作ればよいかという選択の時代を迎え、流通機構サイドからの様々な要求が、生産者側と消費者側のズレとして現われている様に思われます。女性もただの労働力提供者としてでなく、生産と食卓を預かる女性の立場から農業経営に参画し、共に考え育てる視野を深める努力をし、消費者との信頼関係を築く必要があると思ひます。

取材して

女性の地位向上のため、我々先輩の女性たちの艱難辛苦を思ふ時今、行政の側からの呼びかけで、この様な会議が開かれたという事に時代の流れを感じずにはいられなかつた。しかし、このような運動は本来、私たち女性一人一人の個の中から求められ、大きな流れとなつて高まっていくべきものであろう。そういった意味では、ここに集まった女性たちの地道な努力は評価されて然るべきものと思われれる。こういったエネルギーが次の世代に確かに受け継がれ、二十一世紀へ向けて、新しい女性の展望が開かれる事を願つてやまない。